

登録コード	E9105300	開講年度	2026			
授業科目	心理学研究法				担当教員	高橋 知音
英文授業名	Research Methods in Psychology				副担当	
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	金曜・4時限～5時限前半	対象学生
講義室	教育N303講義室	授業形態	演習	遠隔授業科目		備考
信大コンベンション 該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				⇔	【授業の達成目標】
	26Eカリ, 25Eカリ, 24Eカリ, 23Eカリ, 22Eカリ, 21Eカリ, 20Eカリ					
	教育の専門家に求められる深い教養に根ざした公共的使命感や倫理観				⇔	設定した問いに対して、根拠に基づいてその答を示すことができる。
	教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能				⇔	項目作成、調査用紙の作成・実施、データの入力、統計処理、報告書を作成できる。 統計技法の概念的理解を進めるとともに、データ解析ソフトウェアである HAD を使って分析できる。
(2)授業で学べる「テーマ」	その他					
(3)全学横断特別教育プログラム						
(4)授業の概要	・ 質問紙作成、データ収集、データ入力の実際を体験し、質問紙調査における研究の流れを理解する。 ・ 調査研究に必要な統計学の基本的概念を理解し、データ解析に応用できるようになる。 ・ データ解析を行うためのソフトウェアの使い方を習得する。 ・ データ解析の結果を論文の形式にまとめられるようになる。					
(5)授業計画	第1週 調査研究法概論・質問紙作成法 第2週 定義・項目作成 第3週 質問紙の作成 第4週 データ入力 第5週 記述統計（レポート） 第6週 項目分析・信頼性（レポート） 第7週 妥当性・因子分析 I 第8週 因子分析 II（レポート） 第9週 t-test（レポート） 第10週 カイ二乗検定（レポート） 第11週 分散分析（レポート） 第12週 2要因分散分析（レポート） 第13週 重回帰分析（レポート） 第14週 試験 最終レポートのまとめ方 教育実習による欠席分については、授業内容に応じて適宜指示をします。 授業最終回に授業アンケートを実施します。					
(6)成績評価の方法	・ 毎週の課題レポートは合格、再提出の二段階で評価。すべてのレポートが合格になった者のみが最終レポートを提出することができる。 ・ 質問紙調査法の基礎、統計手法についての理解度を測る小テスト 40% ・ 質問紙調査法の基礎、統計手法についての理解度を測る期末テスト 33% ・ 分析結果を他者にわかりやすいように伝えられるかどうかを確認するe-ALPSへの研究成果報告 2% ・ 分析結果を論文形式にまとめる力を確認する最終報告書25% ・ 得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可					
(7)成績評価の基準	心理尺度を自ら作成し、質問紙調査研究に必要な手続きを指示に従って遂行し、分析に必要な統計概念を理解し、その結果を学術論文の形式に沿ってまとめることができたなら「卓越している」、一部に不十分な点があるだけなら「かなり上にある」、いくつかの部分に不十分な点があれば「やや上にある」、いずれも不十分な点を残しつつもすべての課題をこなすことができれば「水準にある」。					
(8)事前事後学習の内容	各グループは尺度作りを行うが、授業で作成した定義に沿って、質問項目を20個ほど作成する。 検討会で受けた助言を基に、最終尺度項目を作成する。 作成された質問紙(グーグルフォーム)を10人に実施してもらう。 授業の内容についての小テストがあるので、準備をする。 授業で示された課題に沿って、毎回の授業レポートを作成する。 期末試験に向けて、すべての統計授業の内容について復習する。 調査の結果をまとめる最終レポートを作成する。 最終レポートの結果をわかりやすくまとめ、e-ALPS掲示板に投稿する。 ・ この授業は90時間の学修を必要とする内容である。従って,60時間以上の時間外学習が必要となる。					
(9)履修上の注意	第1回目の授業から授業時間をフルに使った(18:20まで)グループ作業があるので、授業日の夕方には予定を入れないようにする。					
(10)質問, 相談への対応及び連絡先	tomonet@shinshu-u.ac.jp					

【教科書】	南風原朝和著 心理統計学の基礎 統合的理解のために 有斐閣
【参考文献】	必要に応じて授業内で指示する